

Tetsu Asami

INTERVIEW BY Arakawa Yuko
TEXT BY Tadashi Hirose
PHOTOGRAPHS BY Sasaki Yuki

見える未来を、
安心とともに届けたい。

愛知県大府市で眼科手術に特化した診療を行う浅見眼科手術クリニック。白内障や緑内障、網膜疾患など、幅広い手術を年間1800件以上手がけている。院長の浅見氏が大切にしているのは、「治す」だけでなく、「安心して任せてもらう」医療だ。手術という非日常の体験を、少しでも前向きな記憶に変えたい。その思いが、技術、空間、組織づくりのすべてに貫かれている。



手術に特化した眼科という選択

浅見眼科手術クリニックの大きな特徴は、「手術」に明確に軸足を置いた診療体制にある。白内障や緑内障、網膜硝子体手術、眼瞼下垂など、眼の手術であればほぼすべてに対応してきた。外来診療と並行しながら、専門医チームによる並列手術を行うことで、高い件数と質の両立を実現している。

「もともと三度の飯より手術が好きなんです」と、浅見氏は和やかな表情で語る。外来診療では症状の進行を抑える治療が中心になる一方、手術では視力が劇的に回復するなど、結果が明確に表れるのだという。「患者さんが見えるようになって喜ぶ姿を見ると、こちらも本当にうれしい。そこに大きなやりがいを感じます」。その言葉には、これまで積み上げてきた実績と自信が垣間見える。

繊細な臓器に魅せられて

しかし浅見氏が眼科を志した当初、必ずしも眼科一筋だったわけではなかった。研修医時代、手術を積極的に行う眼科に触れたことが転機になったのだという。顕微鏡下で行う極めて繊細な作業、精密な臓器に直接手を加える感覚。その神秘性と奥深さに惹き込まれていったのだ。

「経験を積むほど、安定した結果を出せるようになったんです。万が一トラブルが起きても、対処の引き出しが増える。それが患者様の安心感につながりました」。

大学病院や専門病院で重症例も数多く経験してきたことは、現在のクリニック医療においても大きな強みとなっている。

**五感で不安を和らげる
空間づくり**

浅見眼科手術クリニックを訪れてまず印象的なのが、医療機関とは思えないほど柔らかくて居心地の良い空間だ。待合室にはピアノが置かれ、定期的に生演奏が行われる。アロマの香り、やさしい音楽、スタッフの穏やかな声掛け——すべてが「手術への恐怖」を和らげるための工夫だ。

「手術と聞くだけで、身構えてしまう患者さんは多いでしょう。だからこそ、来院した時間そのものを良い体験として記憶に残してほしい」と浅見氏は話す。コロナ禍でライブが中止されていた時期には、生演奏が患者に大きな喜びをもたらしたという。人が奏でる音楽、だからこそ生まれる温度感が、過度な緊張をほぐしていくのだ。

**”伝わる説明“への
徹底したこだわり**

また浅見氏が特に重視しているのが、手術前の説明だ。高齢の患者も多く、緊張や聴力の問題から説明が十分に伝わらないケースも少なくない。そのため大型モニターを用いた視覚的な説明、音声を増幅する機器、マイクを使った発声など——「分からないまま手術を受ける」状態を決して作らないための工夫を重ねている。

「何をされるか分からないまま横になるのが、一番怖い。きちんと理解してもらえた時の患者様の表情はまったく違います」。

現在、手術は浅見氏一人ではなく、各分野の専門医とチームで連携しながら行われている。並列手術によって効率を高める一方、スタッフの負担軽減にもつなげてきた。子育て中のスタッフが安心して働ける環境づくり、互いに支え合える体制は、結果として患者の満足度にも直結する試みだ。「紹介が増えるのは、スタッフの対応力のおかげ」と浅見氏が言う通り、日頃からスタッフへの労いや感謝の気持ちが絶えないという。

チーム医療と持続可能な組織

さらに浅見氏が重視しているのが、医療の質を長期的に維持するための「仕組みづくり」だ。手術件数を増やすことと自体が目的ではなく、無理のない体制の中で安定した結果を出し続けること



**技術だけでなく、
安心まで提供する医療へ。**

に価値を置いている。

「二人の医師が無理をして回す医療はどこかで限界がきます。だからこそ、組織としてどう動くかを常に考えているんです」。

結果として、手術を必要とする患者が適切なタイミングで治療を受けられる環境が整いつつある。「安心感は技術だけでは生まれません」と浅見氏も語るように、医師やスタッフが余裕を持って働いていること、その空気感そのものが患者に伝わるといふ考えだ。

「スタッフが疲弊していると、どんなに技術が高くても患者さんは不安を感じてしまうでしょう」。

**好きなことを
買った先にある経営**

開業を決意したとき、浅見氏には明確な軸があった。それは「手術をやり続けること」である。

大学病院で培った技術を、より患者

に近い場所で生かしたい。その思いで開業し、日々手術に取り組んでいる。好きなことを徹底して貫く姿勢は、診療の質を高めるだけでなく、組織の在り方にも影響を与えた。患者が安心して通い、「見える未来」を実感できる場へと成長している。

理念を共有するスタッフと共に持続可能な診療体制を確立し、その歩みは専門性を軸とした経営の一つの指針を示している。



医療法人 護明会
浅見眼科手術クリニック

理事長・院長

浅見 哲

眼科医。大学病院および専門病院にて数多くの重症眼疾患の治療に携わり、白内障・緑内障・網膜疾患など幅広い手術経験を積む。手術への強い情熱を原動力に、愛知県大府市に浅見眼科手術クリニックを開院。年間1,800件超の手術実績を持ち、医療技術だけでなく、五感に配慮した空間づくりやチーム医療を通じて、患者の不安に寄り添う医療を実践している。

〒474-0073 愛知県大府市東新町2-165

<https://asamiganka.com/>